

将来像

「自立と協働で創る 元気なまち 三股」

をめざして

三股町は、昭和46年に第1次総合計画を策定して以来、平成22年度を目標とする第4次総合計画まで、生活基盤の整備、産業振興、教育や健康福祉の充実などに努めるとともに、平成の市町村合併が進められる中、自主自立の道を選択し、町民と行政が一体となって各種施策の実現を図ってきました。

そして、現在、少子高齢化社会と人口減少時代の到来、地球温暖化など環境問題や安心・安全への意識の高まり、経済・産業の環境変化、価値観の多様化、地方分権の進展や地方の財政状況の悪化など町政を取り巻く環境は著しく変化しています。

このような社会環境の変化や町民の要望を踏まえ、これまでのまちづくりを継承しながら、自主性や自立性を高めるため、このたび、平成32年度までの10年間を見通し、新たなまちづくりの方向性を定めた「第五次三股町総合計画」を策定いたしました。

この計画は、まちづくりの基本理念として「自主自立のまちづくり」「参画・協働のまちづくり」「快適環境のまちづくり」「安心・安全のまちづくり」をキーワードとし、まちの将来像を「自立と協働で創る 元気なまち 三股」と定め、その実現に向けて5つの基本方針からなる施策を体系的に取りまとめたものです。

計画策定にあたっては、総合計画審議会をはじめ、地区座談会の開催、町民意向調査やパブリックコメントの実施により、多くの町民の皆様のご参加をいただきました。

今後は、この新しい総合計画で定めた将来像「自立と協働で創る 元気なまち 三股」を実現するため、町民の皆様と手を携え、全力で取り組んでいきますので、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

最後に、本計画の策定にあたり、貴重なご意見・献身的なご協力をいただきました町民の皆様並びに関係各位に対し、心からの感謝とお礼を申し上げます。

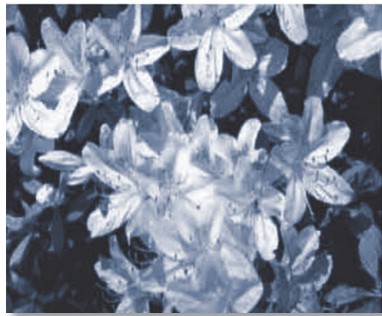
三股町長 木佐貫 辰生



町章は町の木「イチョウ」を図案化したもので、外形は丸く円満で輪、すなわちなごやかさを表すとともに無限を意味しています。なお、イチョウの葉は、扇形で、前途洋々たる希望と将来に向かって躍進する「文教のまち三股」を象徴しており、三股町の「三」をイチョウの葉で近代的にデザインしたものです。

昭和46年8月1日に制定

町の花



サツキ

一年の中で五月といえば、とてもさわやかな気候の月です。また、植物や動物たちが冬の間蓄えたエネルギーをもって活発に動き出す季節でもあります。

中でも、サツキは自然の躍動を象徴するように大きく強く咲き、集団的な美を誇る花でもあります。

心さわやかに永遠の発展を願って前進しようとする私たちの町の代表花といえましょう。

町の鳥



ホオジロ

ホオジロは翼長約7センチ、赤褐色で目の上の口から頬にかけて白斑があります。

変化のある美声で鳴き、昔から「一筆啓上仕り候」などと聞き慣らされており、声を楽しむ野鳥として、これほど私たちの心に残る鳥は少ないでしょう。

時代の移り変わりの中で昔の面影は薄くなりつつありますが、ホオジロには町のふるさとのイメージが残されています。幼き日の友であり、また遊び相手でもあったホオジロは、目立たぬ鳥ながらも何か忘れ得ぬ印象があります。

町の木



イチョウ

イチョウは、日本及び中国を原産とする落葉樹で、成長が早く寿命も長いことから、寺院や神社の境内、学校などには必ずといってよいほど植樹されています。

また、公園や街路の並木として風情を添えるほか、各種工作物の材料にも適しており、日常において親しみのある存在となっています。

イチョウの木にまつわる因縁、語り伝えの類も多くあり、躍進する三股町にふさわしい木といえましょう。

三股町町民憲章

わたくしたち三股町民は、先人の偉業に学び、郷土愛と開拓精神をもって、明るく豊かな町をつくるために、この憲章を守ります。

一、常に新しい希望をもって、

郷土の開発につとめましょう。

一、教育を尊び、青少年を

健やかに育てましょう。

一、環境を清潔にし、健康の

増進につとめましょう。

一、生活をくふうし、よりよい

風習をつくりましょう。

一、力をあわせ、ねばり強く、

住み良い町を築きましょう。

(昭和三十九年一月四日制定)
(平成十一年四月一日改定)